

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会

第1回認知症対策部会 会議録

開催日時	平成30年6月16日(土) 午後3時30分～午後4時45分
開催場所	生駒市役所 401・402 会議室
出席者 (委員)	山上部会長、中溝副部会長、川田委員、徐委員、茨木委員、喜多委員、湯川委員
出席者 (その他)	
欠席者	三原委員、吉村委員
事務局	影林福祉健康部長、田中福祉健康部次長、後藤地域包括ケア推進課課長補佐、渋谷地域包括ケア推進課主幹、岡崎地域包括ケア推進課係員
傍聴	2人
案件	(1) 認知症対策部会平成29年度活動報告書(案)について (2) 認知症対策部会平成30年度スケジュール(案)について (3) 認知症初期対応に係る事例集(案)について
資料	平成30年度 第1回認知症対策部会 会議次第 資料1 認知症対策部会平成29年度活動報告書(案) 資料2 認知症対策部会平成30年度スケジュール(案) 資料3 認知症初期対応に係る事例集(案) 資料4 生駒市認知症初期集中支援推進事業実施要綱・生駒市初期集中支援事業実施の手引き 資料5 奈良県認知症サポート医情報一覧
議 事 の 経 過	
発言者	発言内容
事務局 部会長	1 開会 2 案件 案件(1) 認知症対策部会平成29年度活動報告書(案)について (資料1に基づき説明) 丹野さんの話はよかったそうですね。スマートフォンに顔と名前を入れているのですか。

事務局	スマートフォンを使いこなして自分の記憶をたどっておられる。お若いので SNS などを活用されている。
部会長	初期集中支援チーム、昨年度は 2 例でしたか。
事務局	はい。 委託で実施している市もある中、生駒市はやまと精神医療センターの協力を得て、直営でやっている。人事異動もあり、現在チーム員として活動できる職員は 1 人。今年度 1 人研修に行く予定。
部会長	ありがとうございます。この後開催される協議会で報告します。
事務局	案件(2) 認知症対策部会平成30年度スケジュール(案)について (資料2に基づき説明)
部会長	前回の意見交換で挙げた初期対応の事例集を今年度の予定として入れていただきました。多職種連携は現時点では未定ですか？
事務局	多職種連携に関しては在宅医療推進部会とも協力していくことになる。 在宅医療推進部会では、看取りをテーマに考えている。認知症対策部会でも看取りに関連した研修ができれば。皆さんの領域の中からこんなテーマがいいよ、というものを出示してもらえたらありがたい。 また、事例集については、初期対応というところで、認知症初期の方の思いを入れつつ1年かけて作成できればと考えている。
部会長	こちらも後の協議会で報告します。
事務局	案件(3) 認知症初期対応に係る事例集(案)について (資料3に基づき説明)
事務局	認知症の初期の方の理解を促進するために、ケアパス以外にも事例集ができればと、前回ご意見をいただいた。 当事者の思いを普段ゆっくり聞く機会はあまりないが、当事者及び家族にヒアリングをさせていただいた。認知症といえばBPSDのイメージが強い。家族が気持ちを共有できる場が大事。本人も初期では自分の意見をしっかりいえるが、家族の意向で介護サービスを利用することも多い。本人の強みを引き出せるような事例集が作れたらと考えている。
部会長	事例①について 服薬がうまくいってないケースも多い。工夫はしているが。
委員	飲む回数を減らす。先生と相談してできるだけ1回にまとめる。でもちゃんと飲んでいるかどうかはわからない。
委員	日付を入れてもらい、絶対に捨てずに置いておいてもらう。毎日は厳しいかもしれないが、ためる癖をつけてもらう。

	<p>カレンダーだけでなく、テレビを必ず見る人には、テレビに1週間分貼っておいたりしている。</p>
事務局	<p>宝物はここに入れるよと宝箱があることを家族が本人に伝えておいて。遠方から電話で「宝箱開けて、中に入ってる薬を飲んで」と声をかけたり。初期だと電話はとれるので、このような支援もできる。</p>
部会長	<p>家族ができないときは難しいですね。</p>
事務局	<p>現在初期の人を支える「認知症支え隊」というボランティアを養成している。現在登録者は10人ぐらい。今年度も新たに養成する予定。先ほどの薬の話を例にとると、ボランティアが「薬飲みましょうね」と声かけするのと合わせてデイ利用時はデイで内服を促すなど、組み合わせで一人暮らしでも一定期間支えられる。</p>
委員	<p>薬剤師は在宅の人に行けても1～2週間に1回のため、毎日電話で言ってもらえることで習慣になる可能性も高い。</p>
事務局	<p>一般市民だけでなく、医療や介護の専門職の方々もボランティアとしてちょっとしたサポートしていただけたらと考えている。養成講座は4回の連続講座で、当事者やプロの声を聴いたりするプログラム。専門職の方々には講座を受講いただかなくとも支え隊として登録できるようにしていく予定。</p>
部会長	<p>事例②について 包括に相談する人が多いですね。包括を知っている人も増えてきた。「ストレングス」という言葉がよく出てきますね。</p>
事務局	<p>強みを見つける支援が重要です。 よく「デイ」と聞くと拒否する人がいる。「ごはんに行こう」と誘うことで拒否なく行けたり、楽しそうな写真を見せることで行けたりする。専門用語を使わず、ちょっとしたお誘いの声かけに変化を持たせることが大切。</p>
委員	<p>どういう意図で、このような方法をとったかを、誰にでもわかるように書いてほしいですね。</p>
部会長	<p>事例を全部読まなくてもわかるように、ワードやフレーズで書いてもらえたら。</p>
部会長	<p>事例③について 名刺を置いてくる効果は？</p>
事務局	<p>認認の世帯だと名刺を渡しても理解してもらえないだろうと思いがちだが、ぎりぎりでも生活ができていたのは誰かが関わっているのではないかと考え、いろいろなところに名刺を置いてくることで、支援者が見つけて連絡をくれることがある。 家族が久しぶりに訪問した時に、複数の名刺を見つけ、気になって連絡してくれて、支援につながったこともあった。これがケアマネジャーにも伝われば。</p>

部会長	今の文章ではわかりにくいところもありますね。
事務局	修正します。要介護認定の申請や調査、受診など複数の日が必要になると家族は関わりにくいですが、全部を1日にまとめることで遠方の家族でも関わるができるように工夫することが大事。
部会長	支援方法のポイント、肝の部分について、もっとみんなにわかりやすいようにして欲しい。
事務局	はい。
委員	私も以前にこの話を聞いて、名刺を置きまくる作戦をしている。何らかの連絡が誰か1人にでもつながれば、支援につながる。
部会長	事例④について 廃用性の人に混じるという表現はわかりにくい。
事務局	虚弱高齢者に修正します。
部会長	構成について 事例はたくさんありすぎても皆読まないですね。8例ぐらいですかね。
事務局	今回は市が直接関わったケースを挙げている。
委員	男の人はなかなか外に出にくい。嘘をついて出すこともある。来ても楽しめなかったり、交わりが難しかったりする。
事務局	生駒市の総合事業ではマシンを使っているため、フィットネスに行こうよと声をかけると男の人は来ることができたりする。
委員	男の人は答えを求める。明確な目的がないと動けない人も多い。
委員	男性は張り合うのが好き。隣の人より負けていたら「もう1回やらせて」となる。前回よりどれくらい伸びたかなどを気にする。そこを明確に提示すると男性は乗ってきてくれる。握力は明確に出る。年齢の平均値より高いかとか。
部会長	ご意見としてはこれくらいでしょうか。
事務局	今回は案として4事例。委員の皆様にも現場の経験を踏まえた事例の提供をお願いしたい。
事務局	その他 ・認知症初期集中支援チームの手引きの配付 ・次回の日程